



ENEOS

[第3回 SS過疎地研究会]

ENEOSの取組みについて

ENEOS株式会社

2022年2月21日

- 1.はじめに
- 2.当社が展開する施策
- 3.SS過疎地・地方都市における今後のSS方向性
- 4.SS過疎地における実態の考察
- 5.まとめ

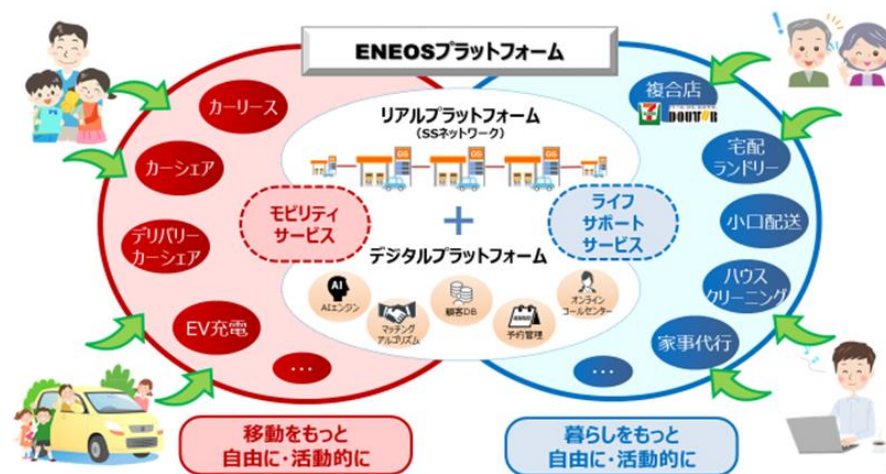
1.はじめに

【前提として】

- 本業のSSで利益が出なければ、多角化し他の商売で利益が出ても本質的な課題解決にならないSS自体の経営を安定させる視点が必要
- 規制緩和・補助金活用による設備・運営コストの負荷低減は有効（行政支援）
- 公設民営などの公助・共助の活用、道の駅との連携による観光需要・通過需要の取り込みなども検討も必要だが、まずは民間でしっかりとSS運営ができるための方策を検討するべき

【そのうえで】

- 「2050CN社会実現」「2035車両電動化」など、SSを取り巻く環境が大きく変化しているなか当社は「SSの生活プラットフォーム化」に取り組み中
 - ・地域住民・顧客の暮らしに必要なエネルギーをコアに
 - ・親和性の高いモビリティサービス
 - ・生活に必要なライフサポートサービス を提供
- SS過疎地においても有効な打ち手と期待



2. 当社が展開する施策

- 「2050CN社会実現」「2035車両電動化」に適應し再エネ・次世代燃料やEV・電力事業を強化
- エネルギーをコアにモビリティ・ライフサポートサービスを提供する「SSの生活プラットフォーム化」を推進

事業構造改革

再エネ・次世代燃料

- ・ 太陽光発電・風力発電（陸上・洋上）などの再生可能エネルギーの開発
- ・ CO₂フリー水素サプライチェーンの構築やMCH（水素キャリア）の研究開発
- ・ バイオ燃料や合成燃料の研究開発

EV・電気

- ・ EV普及期を見据えた充電ネットワークの拡充
* 2021年7月EV事業推進部を発足
- ・ ENEOSでんきなどの電力事業への取り組み

SS生活プラットフォーム化

店舗多様化

- ・ 高い技術力を活かしたDr.Drive、Smart&ConvenientなセルフSSブランドEneJetなどの様々な店舗形態
- ・ 店舗力を高めるコンビニやカフェ複合店舗、ランドリー併設店舗

商材多様化

- ・ カーリース・カーシェアなどのモビリティサービス
- ・ 洗濯代行・買物代行などのライフサポートサービス
* カーシェア・洗濯代行・買物代行は実証中

運営支援

- ・ SSをより便利に活用いただくためのアプリケーション
- ・ アルバイトスタッフの採用をサポートするプログラム

3.SS過疎地・地方都市における今後のSS方向性

■ SS過疎地・地方都市における今後のSSの方向性は主に以下の2つ

- (1) SSを基盤にした多機能・地域拠点型SS
- (2) 公設民営などの地域公助・共助型SS

(1) SSを基盤にした多機能・地域拠点型SS

- ・ SSを基盤に洗車・メンテナンスや灯油配達（LPG配達）などで一定の収益を確保
- ・ 地域住民、顧客の暮らしに必要なモビリティサービスやライフサポートサービスを提供することで地域の生活拠点化

(2) 公設民営などの地域公助・共助型SS

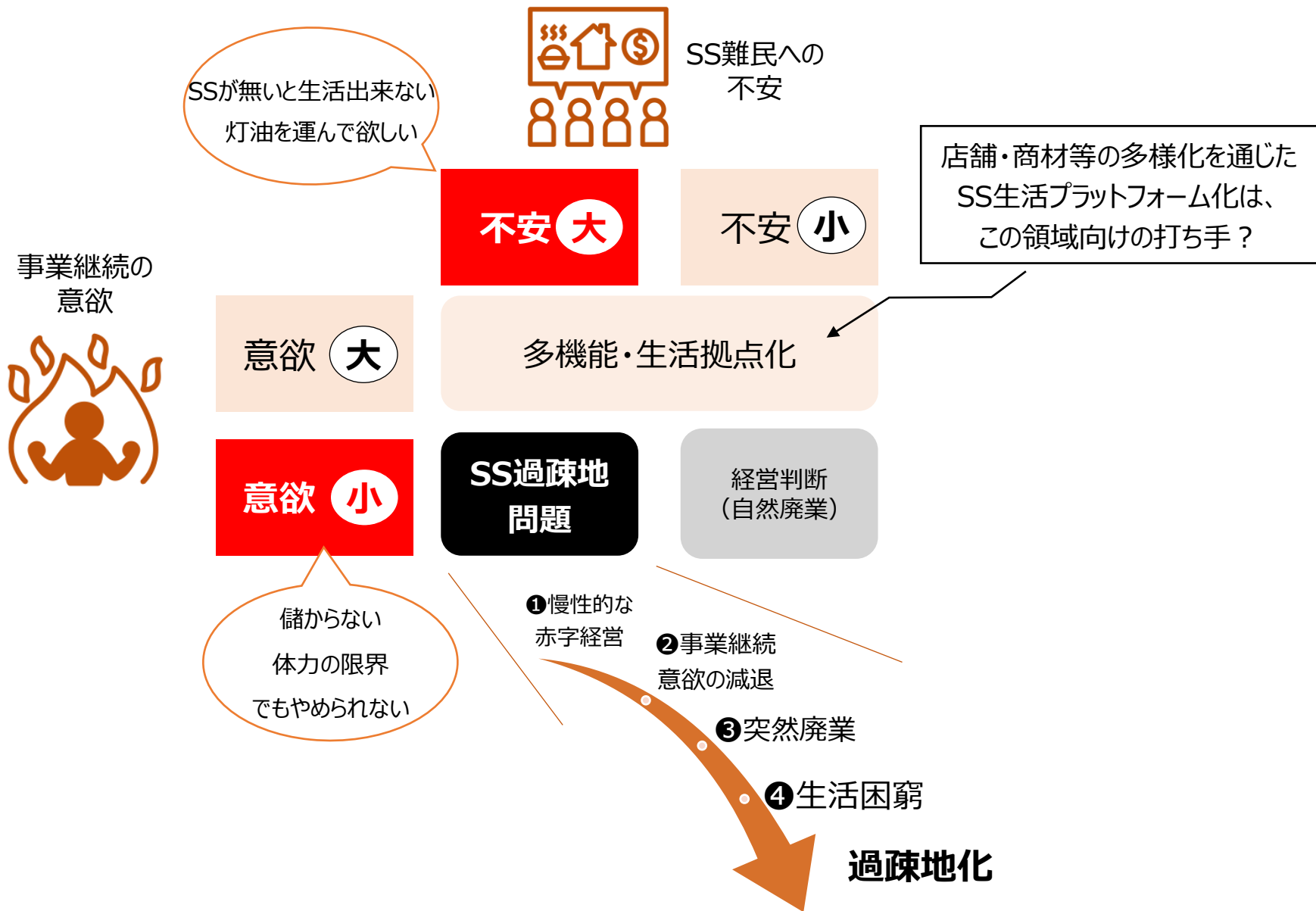
- ・ 民間単独では経営が立ち行かないSSを地域協力のもと維持・運営
- ・ 必要な設備・運営コストを地域一体で支える発想が必要
- ・ また、行政機能を併設し目的地需要を促したり、道の駅近隣への移設などによる観光需要・通過需要の取り込みなど、地域行政との連携・協力が必要

行政支援 + 一定の受益者負担（理解醸成）

+

規制緩和・補助金活用による設備・運営コストの負荷軽減

4. SS過疎地における実態の考察

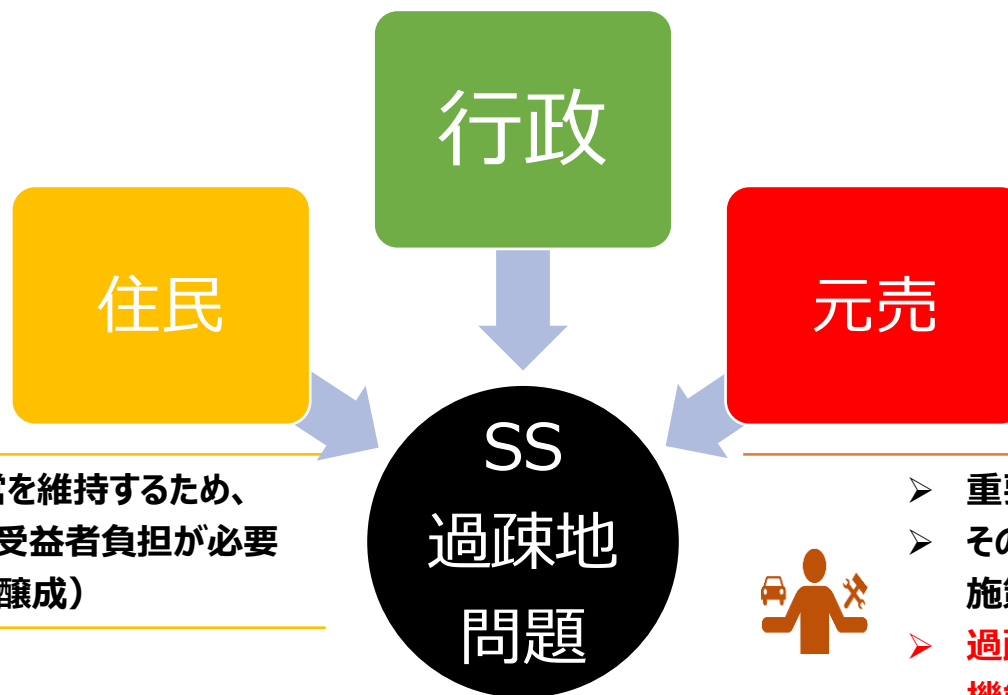


5. まとめ

地域に必要なSSが、突然なくならないために・・・



- 規制緩和（地下タンク老朽化対策の検討等）
- SS運営コスト軽減につながる公的支援（使い勝手が良いもの）
- 事業者意欲の定点観測や相談受付の仕組みづくり



- SS運営を維持するため、一定の受益者負担が必要（理解醸成）



- 重要な社会インフラであるSS
- その運営力強化につながる施策展開を引続き推進
- 過疎地に必要なプラットフォーム機能の検討（行政・医療・理容など）